

## 「日和佐八幡神社秋祭りまで、あと少し！」

今年もあと少しで、日和佐八幡神社秋祭りの時期を迎えますが、全国的に地方の祭りの継続が過疎化や高齢化の進行によって困難になっていることをご存知でしょうか。

同様の問題を抱える美波町ですが、近年は日和佐地区を中心にサテライトオフィスの社員や移住者が増え、積極的な祭りへの参加により、賑わいや継承に活躍してくれています。

昨年初めて秋祭りに参加した、美波町にサテライトオフィスを持つ株式会社ヒトカラメディアの中川さんに話を聞きました。

「朝から晩まで一緒にちょうさ(太鼓屋台)をかつぎ、同じ掛け声を出し続ける。都会ではなかなか経験できないこの一体感、心地よい高揚感と疲労感は、地方の祭りならではのようです。祭り全体を通して、町の人たちから「ようきた！」の歓迎の気持ちを常に感じました。この人の温かさは、美波町の大きな魅力で美波町が大好きになりました。」

「サテライトオフィスでの勤務で移住をされた方の中には、太鼓若連中に所属し責任者をされる方まで出てきており、秋祭りを通じて地域とコミュニケーションを図ってくださり大変うれしく感じています。今後さらに各世代を巻き込んで、色々な仕掛けを行う起爆剤となることを期待しており、さらに地元の間人もサテライトオフィスの皆さんに負けないように切磋琢磨していければと考えています。」と日和佐八幡神社禰宜の永本さんは語ります。

これからも美波町の文化の継続に向けて、美波町全体で祭りを盛り上げていきましょう。



昨年の秋祭りに参加したサテライトオフィス企業の関係者

## デュアルスクールの取り組み、全国に！



昨日、地方創生だよりに掲載した杉浦さん親子のデュアルスクール体験が、日本の地域をテーマにした移住者向けの情報雑誌「TURNS」で紹介されました。「美波町をふるさとにしたい」そのように話す杉浦さんの言葉に、雑誌を読んだ全国の移住希望者が美波町に興味を持つはずです。

こうした雑誌や新聞での注目の高まりと共に、地方創生を加速させる施策として、国の方でもデュアルスクールの取り組みを全国に広げる動きがスタートしています。

多様な働き方や暮らし方が増えていく中で、学校のあり方も少しずつ変わっていきます。都市部と地方の2拠点居住で生活する人が多くなればなるほど、デュアルスクール制度はなくてはならないものになりつつあります。その変化の中心となっているのが美波町。この町で身近におこっていることが、国を動かし、全国の制度を変えていこうとしています。

## お知らせ

美波町の地方創生に関する新聞記事や雑誌が以下の場所でご覧いただけます！

日和佐地区：日和佐図書・資料館1階

由岐地区：由岐ふれあいホール(ぽっぽマリリン2階)

リレーコラム7

「町音」で  
人と人をつなぐ♪

美波町建設課

福島 康人

子育てがある程度一段落してきて、さあ何をしよ。特に趣味を持っていないかった私でしたが、40才を過ぎ、音楽には、とんと縁もなかつたですが、ギターを片手に「ポロポロギギ」と雑音混じりで弾き語りを初めてみました。今でも上達はしていませんが、仲間と「コレステロールパンチ」を結成し、発心の会、木岐のかかしコンテスト、大戸敬老会等、ワイワイと地域の皆さん、お客さんと楽しく出演させていただいています。どのイベントもそうですが、子供からお年寄りまで、笑顔で汗を流しながら、本当に楽しんで町おこしをしています。やはり遊びの延長でなければ、継続しないんだなと痛感しました。今後徐々に上達しながら、町に元気な音を響かせるよう、暖かい目で見守ってください。

今回は、美波町役場福祉課 宝木由起美さんにお願いたします。

制作：美波ふるさと創造広報チーム

